

2020 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	中原 智美	職名	講師	学位	修士 (保健学) (山口大学 2011 年)
----	-------	----	----	----	------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
成人看護学, 遺伝看護学	慢性期看護, 糖尿病教育・看護, 生活習慣病, 多因子遺伝, 遺伝看護

研 究 課 題
<ul style="list-style-type: none"> 慢性疾患をもつ患者・家族への看護に関する研究 2 型糖尿病の遺伝に関する知識が患者の自己管理行動および看護に及ぼす影響についての研究 初年次教育の学修効果に関する研究

担 当 授 業 科 目	
緩和・がん看護学 (旧カリ：緩和・終末期看護学)	(看護学科)
成人看護学演習 (旧カリ：成人・老年看護学演習)	(看護学科)
成人慢性期看護方法論	(看護学科)
成人慢性期看護学実習	(看護学科) 2019 後期～2020 前期 / 2020 後期～2021 前期
初年次セミナー I	(看護学科)
初年次セミナー II	(看護学科)
看護研究 (旧カリ：看護研究の基礎)	(看護学科)
看護総合演習	(看護学科)
看護総合実習	(看護学科)
看護学	(栄養学科)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【 緩和・がん看護学(緩和・終末期看護学) 】</p> <p>主な担当内容は、がん看護 (5 コマ), 症状緩和のためのマネジメント (1 コマ) であり、実際に 3 年次以降の実習で知識を活用できるように、できるだけ具体的な看護方法を示しながら講義した。また、疾患・治療による影響のメカニズムやなりゆきを明確にし、それに対応した看護方法を示すことで、看護の根拠を理解しやすいように工夫した。</p> <p>講義内容の理解を深めるための工夫として、疾患・症状・治療などのイメージが難しいものについては画像を見せたり、テレビドラマなどの話題を盛り込んだりした。</p> <p>特に、本年度は遠隔授業へと変更になり学生の反応を直接見られないこと、1 コマ 100 分授業と長いため集中が途切れないように、遠隔授業ならではのツールを活用して工夫した。例えば、講義前に事例への関心度や治療へのイメージなどについてアンケートを行い、リアルタイムで結果を共有して患者・家族の理解につなげたり、講義内容の理解度をチェックするために国家試験出題基準をふまえた小テストを実施したりして、関心を維持できるように努めた。</p> <p>また、講義終了後にフォームに学び、質問、感想を記入してもらい、次の講義の冒頭で質問への回答や感想を紹介して、さらに関心を高められるように努めた。</p>

授業科目名【 成人看護学演習（成人・老年看護学演習） 】

看護過程演習では、慢性期疾患（肝硬変）の事例を通して看護過程の展開（12 コマ）を主担当として講義した。対象（成人、慢性疾患を持つ患者）の状態を根拠に基づいてアセスメントするためのポイントを解説し、看護上の問題を引き起こしている原因やなりゆきを考え、看護目標・看護計画とのつながりを考えられるように繰り返し説明した。

遠隔授業となりグループワーク等で困難が生じることが予想されたため、さまざまなマニュアル作成を行ったり、内容・方法の見直しを行ったりした。各グループで作成した Classroom 上の Meet で話し合いを行えるようにし、成果物を共同で作成できるように Google ドライブ等も活用できるようにサポートした。個別性のある看護が導き出せるよう、グループワークで担当グループの Classroom を巡回しながら提出物へのコメントを細やかに行った。

1 事例終了時に中間テストで看護過程の展開に関する理解度を確認したが、理解度が低いものには事後に個別面談（遠隔）で口頭試問と理解が不十分な点の解説を行い、その後も個別にフォローして次の事例の看護過程の展開につながるように努めた。

技術演習では、糖尿病の食事療法に関する演習、血糖自己測定・インスリン自己注射に関する演習などを通して患者役・看護師役として患者教育の体験ができるように工夫した。技術演習も遠隔授業では困難であったが、それぞれ、技術の手技習得のみならず、事例を題材として患者の生活改善や行動変容のために必要な教育や心理面への配慮すべき点を考えながらグループワークできるようにした。事後には必ず振り返りの機会を設け、学生が患者の生活を思い描きながら患者の心身の状況に沿った援助を導きだせるように指導を行った。

前期の期間は一切対面授業が叶わなかったため、血糖自己測定・インスリン自己注射の技術を実際に行うことができなかったが、デモンストレーション映像も繰り返し見られるように掲載し、後期からの成人慢性期看護学実習のなかで実践する時間を設けるようにして、実習と連動させて技術習得できるように努めた。

授業科目名【 成人慢性期看護方法論 】

主に、内分泌・代謝機能／腎・排泄機能／生体防御機能に障害をもつ人の看護（計 7 コマ）を担当した。それぞれの機能障害によっておこる身体面への影響、疾病のなりゆきを予測してアセスメントする力が身に付くよう、代表的疾患を例に挙げ観察項目やアセスメントの視点を具体的に示した。また、慢性疾患をもつ成人やその家族の心理・社会面の特徴をふまえ、QOL をより高め、その人らしく生きるために必要なセルフケア支援についても、看護目標、看護のポイント、症状・苦痛の緩和やコントロール方法、心理・社会面への支援方法を具体的に示し、根拠立てて理解しやすいように講義の流れを組み立てた。

全体を通して、病態の理解などは既習科目の復習を本科目の予習として課し、講義中に指名して問いかけながら知識を確認することで学習への動機づけができるように意識した。また、病態の理解をもとにアセスメントの視点や看護の方法を思考するトレーニングができるように、課題を出したり、講義中に意図的に問いかけ思考を促す機会を増やしたりするように工夫した。単元（2～3 コマ）ごとに小テストを行うことで授業への集中力を高め、学生もこまめに自分自身の理解度を確認できるように工夫した。

また、講義終了後にカードまたはフォームに質問や感想を記入してもらい、次の講義の冒頭で質問への回答や感想を紹介して、さらに関心を高められるように努めた。

授業科目名【 成人慢性期看護学実習 】

本年度は全面学内実習となり、臨地実習は行うことができなかったため、全面的に実習内容を見直し、本実習の目的・目標に到達するための事例や方法について検討を重ねた。さらに、時期によって全面遠隔授業、実技実施日のみ対面授業などパターンが異なったため、状況に合わせながら実技実施の機会をできるだけ多く確保できるように努めた。遠隔であっても意図的な情報収集やコミュニケーション技術を実践できるように働きかけ、対面の場合も患者の心情、環境等をできるだけリアルに再現し、看護者としての実践能力を少しでも高められるように工夫した。ビデオ映像等も活用し、実際に病棟で治療中の患者の様子などを思い描きやすいように工夫した。

実習中の実践、カンファレンスや最終面談においては、次の 2 点を意識して直接的・間接的に指導を行った。

- ①患者を全人的に捉えたアセスメントを行い、治療を継続するためにこれまでのライフスタイルや価値観に基づいた個別性のある看護実践ができるように指導を行った。
- ②アセスメント、看護診断(PES)、看護の方向性(目標・計画)、看護実践、評価、という看護展開のなかで

論理性・整合性のある思考ができるように、全体の流れとそれぞれの位置づけの関係性を意識できるように指導を行った。

学習面、精神面などで特に指導を要す学生に対してはこまめに個別面談を行い、実習目標が達成できるよう個々の問題に応じた指導・支援を行った。また、実習内容、実習場所、実習方法の調整を行い、実習がスムーズに運ぶように働きかけた。

授業科目名【 初年次セミナーⅠ 】

- ①初めてのオンライン講義のため主要な講義資料は、事前に印刷物にして学生の手元に届けた。また、Google Forms を使い学生の情報環境の整備状況を把握した。
- ②本科目は教員 5 名で担当するため、講義の内容・指導方法について、講義前後に Meet 会議を行い詳細な打ち合わせをした。
- ③講義についての連絡や指示内容については、毎回、Google classroom を使い学生に詳細に掲示した。とくに、オンラインによるグループ活動は、初めての取り組みであったため、毎回の講義の指示については、教員間で統一をはかった。
- ④レポート作成の習熟を図るために、今年度は、レポート作成に関する講義を 2 回、文献の読み方についての講義を 1 回実施した。とくに、2 回目のレポート講義では書き方のポイントを再度抑える、文献の読み方では文献モデルを使い講義する、など講義担当者が学生の習熟度を上げることを意識し講義を実施した。
- ⑥情報収集に関する講義は、情報課・図書課に依頼しオンラインによる講義を行った。また、学生の情報環境で不具合などが発生した時には、情報課と連携し対処した。

授業科目名【 初年次セミナーⅡ 】

- ①初年次セミナーⅡでは、初年次セミナーⅠで学修した基礎的知識・スタディスキルズの強化を図り、プレゼンテーションの機会を設けた。特に看護学科ではこれから学修する専門科目の基盤として「書く」「考える」クリティカルシンキングを意識したプログラムとした。8 回目より遠隔授業となったが、遠隔授業で対応できるように調整を行い、授業目標を到達できるように構成を考えた。
- ②講義を 2 コマ続けて実施することで、学習内容・進度にあわせた講義進行を行った。
- ③初年次セミナーⅠでの学生の意見を受けて文献カードの記載法や、学生が議論をとおして思考できるような課題発見のためのシートなども改良した。
- ④グループテーマを新聞情報等から問を見だし、文献検索を行うように指導を行った。文献検索は CiNii、Google Scholar の利用方法について説明を行った。
- ⑤対面授業が可能となったため、初回にアイスブレイクを取り入れ、グループ間の交流をはかった。
- ⑥DP にそった評価指標をオリエンテーションで明示した。学生はレポート作成、発表と段階に応じた自己評価を行い、自己の振り返りを行うことができるようにした。
- ⑦遠隔によるパワーポイントでの発表は、全員の原稿やパワーポイントを 1 つにまとめることで、内容、スライドを統一する必要性について学ぶ機会とした。発表時の評価は、担当者 5 名に看護学科教員 1 名を加えた計 6 名で行った。複数の教員による評価で、より客観的な評価を行うようにした。
- ⑧最終日には、優秀賞の発表と他者評価をとおして自己の振り返りを行う時間を設けた。

授業科目名【 看護研究（看護研究の基礎） 】

本科目では、研究の基礎となる知識や考え方を講義で学びながら、同時に研究計画から発表までの研究のプロセスを実践することで、クリティカルシンキングや看護研究の視点をもち疑問を追求する姿勢を育むように工夫した。担当教員ごとに 4 グループ（20 名程度）の看護研究を受け持ち、グループワークを通して指導、助言を行ったが、少しでも疑問を追求することの楽しさを感じられるように、テーマ設定から意欲を高めることを意識して関わった。また、発表会を通して他のグループとも学びを共有でき、それぞれのグループが達成感を感じられるように関わった。

遠隔授業であったため、各グループで Classroom を作成し、Meet や Google ドライブを活用しながらグループワークが円滑にいくようにサポートした。また、調査方法として遠隔でも実施できる Google forms を利用できるようにサポートした。

授業科目名【 看護総合演習〔慢性期・終末期〕 】

自己課題に基づいたテーマの設定、および根拠ある看護実践のために文献検索を行い、文献や理論と比較しながら科学的な視点をもってテーマに沿った看護を追求することで今後の課題が明確になるよう指導した。

レポート作成時は、研究論文の形式を意識して構成できるように、個別に繰り返し添削指導を行った。また、発表会を行うことでそれぞれの学びを共有でき、達成感も感じられるように計らった。

そのほか、ゼミメンバーや教員間との連絡・調整などを通して学生が主体的に行動できるよう指導・助言を行った。

授業科目名【 看護総合実習 [慢性期・終末期] 】

根拠に基づいた看護実践能力を培うことや看護実践における自己課題の明確化、これまで学習した看護実践の基盤となる知識や技術を駆使することにより、卒業時に求められる基礎的看護技術を修得することを目的として 17 項目の看護技術の実践を設定した。17 項目に関する事前学習を行い、技術を実践しながら事例に適した方法を追求し、振り返りを行う、というプロセスを通して各々の自己課題を明確にできるように指導した。

本年度は、臨地実習が行えず、学内実習であったため、実際に患者を受け持つ総合的な判断力やコミュニケーション技術を高めるには限界があったが、1つ1つの技術を追求することができ、国家試験で問われる基本的知識の復習にもつながるように工夫した。また、技術の発表やまとめの発表会を通して学びを共有する機会を設けるよう工夫した。

授業科目名【 看護学 】(栄養学科)

発達段階別の看護を意識して、慢性期患者の看護、がん看護、終末期患者の看護について解説した。それぞれの患者の特徴、看護の特徴、看護師の役割の理解を目標に、概論的な内容に加えて一部具体例を示しながら、栄養学科の学生にもイメージしやすいように工夫して講義した。また、保健福祉医療チームにおける看護と栄養の専門職間の連携の必要性や具体的内容について説明することで、今後の栄養の専門職としての活動に結び付けられるように努めた。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本看護研究学会		2007年4月～現在に至る
日本糖尿病教育・看護学会		2007年5月～現在に至る
日本遺伝看護学会		2007年5月～現在に至る
日本看護科学学会		2012年7月～現在に至る
日本看護学教育学会		2013年7月～現在に至る

2020年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書) プチナース2020年10月号 Vol.29, No.11 (387号) 別冊付録 実習でよく挙げる看護診断・計画 BOOK	共	2020.9	照林社	①各領域・病棟の実習でよく挙げる10の看護診断について、看護診断の意味と標準看護計画を解説している ②監修者名：小田正枝 共著者名：下舞紀美代，中西順子，坂田扶実子，福田和明，古川秀敏， <u>中原智美</u> ，安藤敬子(掲載順) ③担当部分： *7 非効果的呼吸パターン (P19～P20) *総頁数 P27 ④B5版

2020年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
・ギラヴァンツ北九州 救護ボランティア (ミクニワールドスタジアム北九州に於ける試合の際、観客を対象とした救護活動)	学生ボランティアのコーディネーターおよび指導、引率	2019年2月～現在に至る (2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響により活動休止中)

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）
<ul style="list-style-type: none"> ・国家試験対策担当 国家試験対策として、模試の計画・準備・実施・事後分析、強化学習や補講等の計画・調整・実施・評価、学生の個別サポート、看護師国家試験当日の引率、国家試験結果の分析など ・2年生アドバイザー 学年全体の活動方針策定、模擬試験実施および事後の振り返り学習指導、担当学生の定期個別面談・履修指導、学業不振者や退学希望者等の個別面談・保護者面談、アンケートによる生活習慣と健康状態の実態把握と支援課題の抽出など ・公開講座委員 2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響により開催困難のため公開講座の開講は見合わせとなった。